ドッジボールのスーパーバトル

# 炎の闘球児 ドッジ弾平

ROM(4Mbit)／スポーツ
7月10日発売予定／価格未定

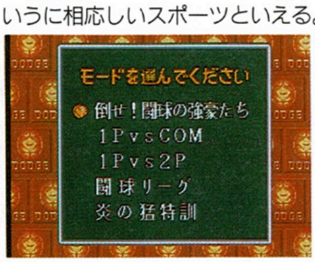
現在、小学館コロコロコミック誌やTVアニメで大人気の『炎の闘球児　ドッジ弾平』がスポーツゲームになった。もちろん弾平はスーパードッジでライバルたちと闘うのだが、登場するライバルの設定は原作に忠実で、彼らのチームの実力もほぼ原作のイメージに近いものになっている。1人プレイならシナリオモードが、2人プレイなら対戦モードが楽しめる。



主人公、一撃弾平のビジュアルなのだ。小さい体に闘志がいっぱい

## スーパードッジとは？

小学生の球技の定番といえばドッジボール。単純なルールと人数の多少にかかわらず楽しめるところが人気の秘密。このドッジボールにダメージ性という格闘技の要素を取り入れたのが、このスーパードッジという訳。まさに闘球というに相応しいスポーツといえる。




モードはこの中から選ぼう。一番上のモードはストーリー仕立てだ



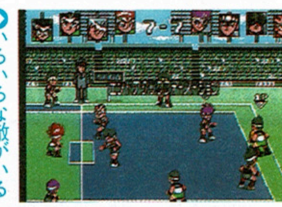
まずは基礎固め。地道な努力が明日の栄光のもとになる

## 迫力満点のバトルシーン

ルールの簡単なドッジボールだけに操作方法も簡単。必殺シュートを投げるにはちょっとしたコツが必要だが、基本的には誰にでもマスターできるはず。操作が簡単なだけに、少しのテクニックの優劣が簡単に勝敗を決めてしまうことになる。テクニック習得のための特訓モードが用意されているので、まずそのモードからスタートしたほうがいいだろう。



ゲームの開始だ



いろいろな敵がいる




なみいる強敵たちのチームを打ち破り、世界へと闘球試合の舞台は広がっていくぞ。がんばれ！

『メガドライブ FAN』1992 年 7 月号掲載



NEW

# 炎の闘球児 ドッジ弾平

TVアニメやコミックで大人気の『炎の闘球児　ドッジ弾平』が、スポーツゲームになった。誰もが知っているドッジボールが原型のスーパードッジだから、弾平ファンならずとも楽しめる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発売予定日 | 7月10日 | ジャンル | スポーツ |
| メーカー名 | セガ | 継続機能 | バッテリーバックアップ |
| 予定価格 | 3880円（税別） | その他の機能 | 2人同時プレイ可 |
| メディア(容量) | ROM（4Mbit） | 現在の開発状況 | 100% |

## 弾平が活躍する格闘球技スーパードッジ

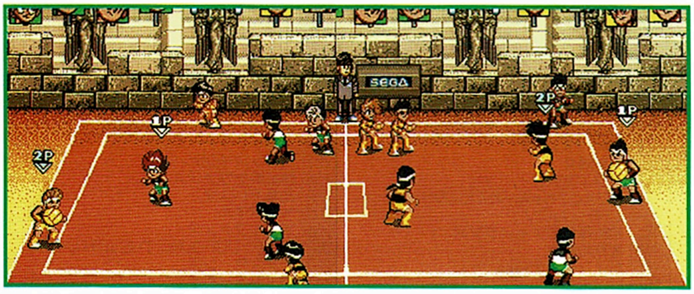
マンガの人気キャラ弾平が、コートの中で１つのボールをめぐりスーパードッジの戦いを繰り広げる。ドッジボール特有のボールをよけるスリルに、格闘技の興奮を付け加えたまったく新しいスポーツ、それが「格闘球技スーパードッジ」だ。このゲームでは、選手にヒットポイントを設けたノックアウトルールを採用している。

### 興奮のスーパードッジゲームだ!!

１チームの選手は、内野４人、外野３人の計７人で構成される。ゲームは、お互いに内野の選手をねらってショットを投げ合い、相手にボールをぶつける。そして内野の選手は、これをかわしたり、キャッチして反撃したりしていく。相手のショットしたボールをキャッチしてすぐショットすると、同じ威力で返すことができる。



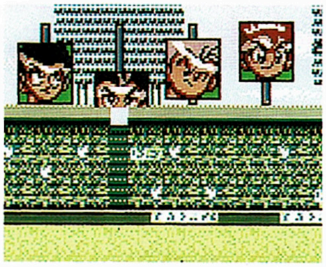
⬆ジャンプボール。ボールを獲得して先制攻撃を決めたいところだ



⬆このコートで、スーパードッジの熱い闘いが繰り広げられる

### 格闘球技を熱くする簡単なルール

ゲーム中のルールで、実際のスーパードッジとの最大の違いが、選手にヒットポイントを設定したノックアウトルール。公式ルールでは一度ボールを当てられるとヒット（ボールをぶつけられ内野の権利を失うこと）になるが、ノックアウトルールでは、何度ぶつけられてもヒットポイントがなくならない限りヒットにはならない。

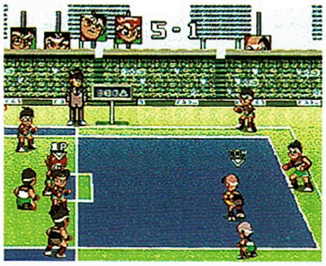

⬆ヒットポイントの残りを表す体力ボード。ダメージを受けると下がる

### ローテーション

ヒットされた選手は外野にまわされ、その代わり外野から内野に選手が補充される。ただし、一度ヒットされた選手は内野に復活することはできないので、４人目以降は内野の人数が減る。まさにサバイバルゲームの格闘球技だ。



⬆各選手のステータスが見られる。試合前にポジションの変更も可



⬆５対１で球川闘球部のリード。あと１人で勝利だ

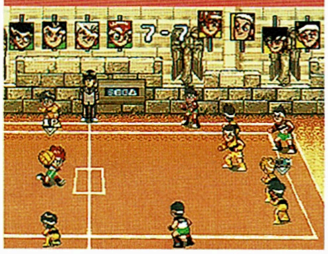
### 反則は２つ

このゲームに再現されている反則は、ラインクロスとオーバータイム。ラインクロスをすると、ボールの権利は相手に移ってしまう。ただ、オーバータイムのときは、選手が勝手にショットを投げるだけになっている。

#### ラインクロス


⬆ボールを持ってラインを踏むこと

#### オーバータイム


⬆30秒以上ボールをキープすること

### 個性ある選手データ

各選手に、体力、ぼうぎょ力、すばやさ、ジャンプ力、シュート力、キャッチ力のパラメータが設定されている。しかも、このゲームに登場するすべての選手データが違った設定になっている。やはり、各チームのキャプテンは手強いだけあって、いいデータになっているぞ。

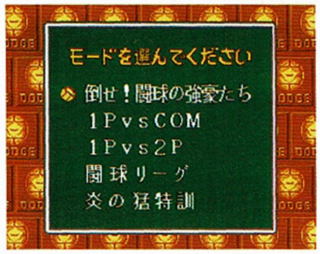


⬆１人１人違う選手データ。シュート力の高い選手でショットだ


『メガドライブ FAN』1992 年 8 月号掲載

# 5つのモードとショットの種類

このゲームには、勝ち抜きモードの「倒せ！　闘球の強豪たち」、対戦モードの「1PvsCOM」、「1Pvs2P」、リーグモードの「闘球リーグ」、練習モードの「炎の猛特訓」と、5つのモードが用意されている。さらに、試合を勝ち抜いていくためのショットもいろいろな種類があるぞ。



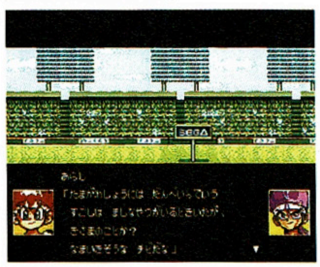

全部で5つのモードが楽しめる

## 倒せ！　闘球の強豪たち

弾平の所属する球川小闘球部で、数々の強豪たちと闘う1人プレイのゲームモード。最初は、地元の闘球チームと闘い、日本の強豪チーム、世界の強豪チームの順に勝ち抜いていく。また、闘志をかき立てる試合前の敵チームとの会話シーンや、途中でメンバーが変わるストーリー性あるイベントなどが用意されている。



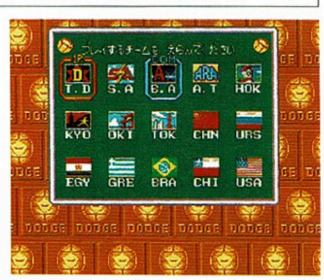
いくつかのビジュアルで構成されたオープニングが気分を盛り上げる



試合前には、敵チームのキャプテンとの会話シーンがある

## 1P vs COM・1P vs 2P

「1PvsCOM」はコンピュータを相手に1試合だけ闘うモード。「1Pvs2P」は、2つのパッドを使ってプレイヤー同士で対戦するモード。どちらのモードでも、全15チームの中から好きなチームを、またノックアウトルールと公式ルールの選択ができる。公式ルールだと、一発でヒットになるのでプレイの緊張感が増すぞ。




15チームの中から、好きなチームを選択できる

## 闘　球　リ　ー　グ

最大6人まで参加して、リーグ方式で優勝を競うモード。参加するチーム数、チーム、ルールが設定でき、チームごとにプレイヤー操作か、コンピュータ操作かを選択できる。また、ルールと操作の設定はリーグ戦の途中でも変更が可能。対戦成績表では、勝率や残り試合数が表示され、途中経過を知ることができる。




闘球リーグの設定は、途中で変更することもできる

## 炎　の　猛　特　訓

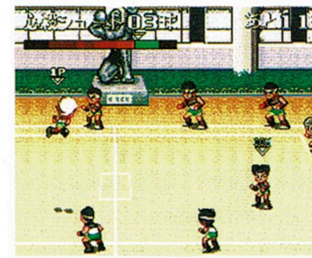
キャッチとスーパーショットの練習ができるモード。キャッチは、10球中6球を捕球できれば合格で、3段階のステップがある。スーパーショットは、20球中10球以上投げると合格。このモードには、スーパーショットを投げるためのパワーメーターが表示され、タイミングがつかみやすくなっている。



このモードで基本をマスターする



キャッチとスーパーショットを特訓できる、うれしいモードだ



緑の部分でボールを放すと、スーパーショットが投げられる

## いろいろなショットが投げられる

ショットは、立ったままのショットより、走ったり、ジャンプしながら投げるショットのほうが威力がある。さらに、ジャンプしながらタイミング良くボタンを放すとスーパーショットが投げられる。また、チームごとに違っているフォーメーションからは、強力なショットが投げられるぞ。



ショットが決まれば気分そう快

### ショットの種類

#### ショット



普通のショット。これでヒットできればラッキーだ

#### ジャンプショット



普通のショットに比べると威力はある。決定打には弱い

#### スーパーショット



これは弾平のスーパーショットだ。ボールが炎に包まれる

#### フォーメーションアタック



チームによってフォーメーションが違う。威力は絶大

MD 炎の闘球児 ドッジ弾平

# 闘球リーグでチーム変更 3

多人数でリーグ戦を楽しむことができるモード、闘球リーグ。本来、リーグ戦の途中で変更できるのは、プレイヤー（COM／MAN）とルールの設定だけ。ところが、ウルテクを使えば参加チームも途中で変更できる。

やり方は、メニュー画面で「つづきから」を選ぶ。次に「しあいをする」にカーソルを合わせ、A、Bの順にすばやく押すと、通常は出るはずのない、プレイヤー決定画面に切り替わる。そこでBを押すとチーム選択画面が現れるので、変更したいチームに選び直す。そしてプレイヤーを決定して、試合を始めると、勝敗の数、勝率、残り試合数などのデータはそのままで、チームが変更されている。

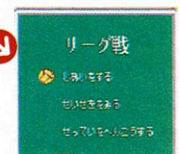
（兵庫県／中尾憲一郎）




チーム変更前の勝敗表がコレ。球川小などが入ってる




さて、「つづきから」を選んで…




「しあいをする」にカーソルを置く

**A、Bの順にすばやく押す**




なぜか、このプレイヤー決定画面になるのだ

**Bを押す**




チーム選択画面でチームを選び直す




チームは違うがデータは元のまま

『メガドライブFAN』1992年12月号掲載